

■ O2 センサ、A/F センサの役割 ■

- O2(酸素)センサ -

排気ガス中の酸素の濃度をチェックし、空燃比が理論空燃比に対して薄いか濃いかを調べるセンサです。
ジルコニア O2 センサが広く使用されています。

- A/F(空燃比:Air-Fuel Ratio)センサ -

近年の車両に採用されることが多くなってきているセンサです。

O2 センサではリッチ(濃い)、リーン(薄い)の信号の変化しか分かりませんが、A/F(空燃比)センサは、変化するその時々
の空燃比をリニアに信号出力することができるセンサです。

その為、エンジンコントロールコンピューターはより詳細な空燃比制御を行えます。

■ センサの配置と割り当て ■

O2 センサや A/F センサ系統の故障コードには、センサの取り付け位置を示す略語で、「B1S1」などがあります。

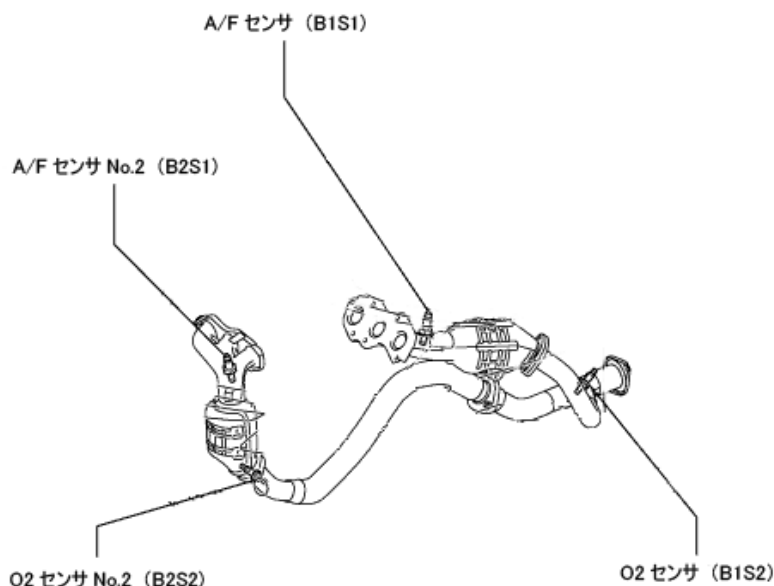
- 例:トヨタ 2GR-FE エンジン -

P0031	O2(A/F)センサヒータ性能低下 B1S1
P0051	O2(A/F)センサヒータ性能低下 B2S1
P0037	O2 センサヒータ性能低下 B1S2

B1 とはバンク 1 の略語で、バンク 1 は 1 番シリンダ側を示します。

バンク 2 はその他のバンクを示し、例えば V 型エンジンでしたら反対側のバンク、直 6 エンジンでしたら 3~6 番シリンダ側を示します。

S1 はセンサ 1 の略語で、触媒前に取り付けられているセンサを S1、触媒後に取り付けられているセンサを S2 と表示します。



- センサ配置図 -